



研究主題

子供も教師も わくわくする 授業づくり ～主体的な学びを目指して～



教育長挨拶

練馬区教育委員会教育長 三浦 康彰

国の第4期教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）では、2040年以降の社会を見据えた「持続可能な社会の創り手の育成」や「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に向けた方針が示されました。学校教育においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることで、子供たちが生涯にわたって能動的に学び続けるための資質・能力を身に付けることがより一層求められています。

そのような中、豊玉南小学校では、令和5・6年度の2年間にわたり、研究主題を「子供も教師もわくわくする授業づくり～主体的な学びを通して～」とし、国語科および社会科における児童の主体的な学びの充実に向け研究に取り組みました。研究では、教師が児童の疑問や気付きを基に課題を設定したり、複数の学習シートを用意し、児童に自己の課題や能力に応じて選択させたりするなど、「自ら課題を設定する」「自ら見通しをもって取り組む」「自ら課題を解決する」「自ら学びを振り返り、次の学習や生活に活かしている」の4つの視点から授業改善を行いました。その結果、児童の学習意欲が高まり、課題を自分事として捉えることによって、解決に向けて粘り強く取り組む姿が多く見られるようになったことは、本研究の大きな成果であると考えます。

結びにあたり、2年間にわたり本校の研究に対し温かくご指導いただきました、明星大学教育学部教育学科 特任教授 相原 雄三 先生ならびに全国小学校国語教育研究会顧問 藤井 英子 先生に深く感謝申し上げますとともに、本研究に取り組みされた 長谷川 修 校長をはじめ教職員の皆様に敬意を表し、あいさついたします。



校長挨拶

校長 長谷川 修

「主体的な学びとは。」を改めて職員全員で問い直すことから今回の研究は始まった。そして、児童が主体的に学ぶためには何が必要なのだろうかについて考えたときに浮かんだキーワードが「わくわく」だった。学習において、児童のわくわく感が学びの原動力となり、もっと知りたい、調べたいという意欲があふれ出てくるのではないかな。さらに、教える教師にもわくわく感がなければ、授業は児童を引き付けるものにはならないのではないかな。そこでまず、どうしても教科書をなぞるだけの授業になりがちな国語と社会という教科をあえて選んで研究を進めてきた。「わくわく」にたどり着くまでには、かなりの時間と労力を費やした。研究はまだまだ兆しがみえた段階である。しかし、この研究によって教師の意識改善、授業改善は確実に進んだ。学習だけでなく、児童の生活においても主体的な姿が見られるようになったのもこの研究の成果と捉えている。本校の研究の内容から何らかのヒントを得ていただければ幸いである。結びに、本研究を進めるにあたり、手厚いご指導をいただいた明星大学教育学部教育学科特任教授 相原 雄三 先生、全国小学校国語教育研究会顧問 藤井 英子 先生、発表の機会を与えてくださった練馬区教育委員会に深く感謝申し上げます。



研究構想図

【学校教育目標】

◎考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

【児童の実態】

- ・与えられる学習に慣れている。
- ・疑問を思わずに受け入れる。
- ・自分の考えをすすんで発表しない。
- ・「もっと知りたい」と思うことが少ない。

【教師の実態】

- ・子供の実態に合わせた授業づくりが難しい。
- ・子供が達成感や納得感を得られるような授業づくりや教材研究が難しい。

研究主題

子供も教師もわくわくする授業づくり
～主体的な学びを目指して～

「わくわくする授業」とは

【児童】

- ・「もっと知りたい」「調べたい」と思い、自ら課題を立てることができる授業。
- ・見通しをもって課題解決することができる授業。
- ・「できそう」と思うことができる授業。
- ・友達と考えを出し合って交流することで考えを広げたり、深めたりすることができる授業。
- ・分からないことが「分かった」と思うことができる授業。
- ・「他のことはどうなのだろう」と、もっと学びたいと思うことができる授業。
- ・学んだことを実生活に活かすことのできる授業。

【教師】

- ・教師自身が教材の魅力に触れたとき。
- ・子供が「学びたい」と思う授業が実践できたとき。
- ・子供の実態に合わせた授業が実践できたとき。
- ・子供が主体的に取り組んでいる授業が実践できたとき。
- ・子供の思考をゆさぶる発問や学習活動を設定できたとき。
- ・子供の多様な考えを引き出せたとき。
- ・授業を通して、子供の成長を実感できたとき。

【研究仮説】

教材について子供の実態を把握し、子供と共に学習課題を立てることで、子供一人一人が自分の考えをもちやすく、自分事として活動に参加できるだろう。また、主体性をもって学習を進めることができれば、授業での経験にとどまらず、もっと世の中について知りたいと思う子供に育っていくだろう。

主題にせまるための手だて

	🔍 視点①	📖 視点②	💡 視点③	🌈 視点④
	自ら課題を設定する	自ら見通しをもって取り組む	自ら課題を解決する	自ら学びを振り返り、次の学習や生活に活かしている
国語	学習する範囲を直観的に読み、疑問や問題を基に学習課題を設定する。	読むことの領域における、単元全体の流れや、1時間ごとの学習課題を明確にする。	習熟度に応じた学習方法の選択や学習シートを作成する。	課題に即した評価基準を設定し、自己評価をさせる。自己評価を基に調整学習を行う活動を設定する。
社会	社会的事象との出合わせ方を工夫して方向性のある児童の問いを喚起し、学習問題をつくる。	単元における問題解決的な学習過程を児童が習得できるようにし、特に「追究する場面（調べる）」では、1時間ごとの「問い（課題）」を明確にする。	「追究する場面（調べる）」では、個に応じた指導として、調べ方や調べる順番、調べる進め方などを児童が選択できるようにする。	自らの学びを振り返る視点を単元の学習過程で意図的に設定し、それに基づいて自己評価する学習活動を設定する。

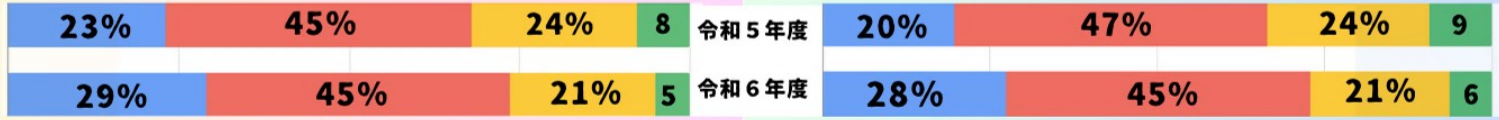
「児童アンケート」の結果

国語

社会

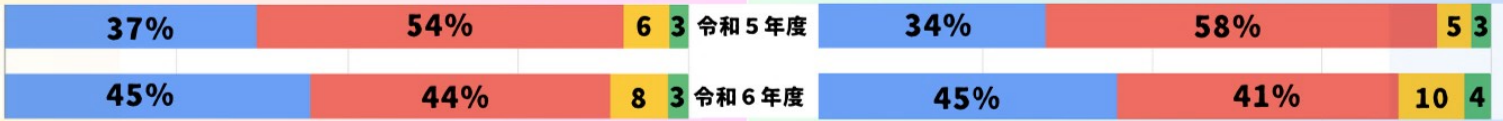
【視点①に関する質問】

毎回の課題を自分で考えて取り組んでいますか。



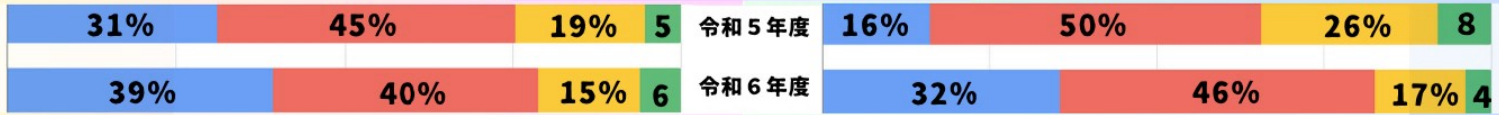
【視点②に関する質問】

1時間の学習の進め方を理解していますか。



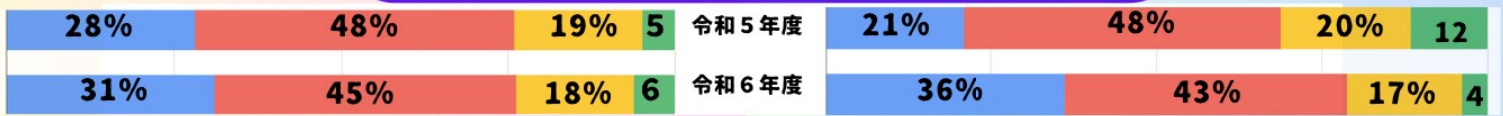
【視点③に関する質問】

課題解決に向けて粘り強く取り組んでいますか。



【視点④に関する質問】

学習したことを基に、もっと学んでみたいと思ったことはありますか。



■ とてもそう思う
 ■ そう思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ 思わない

%を省略しているところがあります。

【成果】

視点①「自ら課題を設定する」

- 児童が「なぜ」という思いをもてるような導入の工夫を行うことで、自ら疑問をもち、それを解決するための課題づくりができた。

視点②「自ら見通しをもって取り組む」

- 児童が学習の進め方を習得することで、どのように学習するとよいのかを知り、自分で学習を進める力が身に付いた。

視点③「自ら課題を解決する」

- 国語科では、診断テストの結果を基に学習シートを能力別に用意したことで、児童自ら課題を解決することができた。
- 社会科では、1時間ごとの「問い（課題）」を明確にしたり、調べ方や調べる順番などを児童が選択できるようにしたりするなど、児童一人一人に応じた声掛けや支援を行うことで、児童が自ら進んで課題を解決することができた。

視点④「自ら学びを振り返り、次の学習や生活に活かしている」

- 自己評価の基準を理解し、児童全員がその時間の目標を達成できるように調整学習を行うことで、授業がよく分かるようになった。
- 児童が自身の考えを振り返ったり、次時への見通しをもったりすることで、「もっと考えたい」という意欲につながった。

【課題】

視点①「自ら課題を設定する」

- 約3割の児童はまだ自ら課題を設定できない現状がある。国語科では、児童の興味・関心を刺激するような表現や叙述に注目させたり、社会では導入の資料を児童の実態に応じて設定したりしながら、自ら課題を設定できる授業づくりを行っていく必要がある。

視点④「自ら学びを振り返り、次の学習や生活に活かしている」

- もっと学んでみたいという気持ちはあるものの、次の学習や生活に活かす児童が少なかった。国語科では、説明文の読み方を次の学習に活かすための指導計画をより工夫したり、社会科では学びを実際の生活に活かそうとする指導計画をより工夫したりする必要がある。



自ら課題を設定する

国語科では…

学習範囲の文章を読むと、「なぜ」「どうして」と疑問が生まれる。それらを基に学習指導要領の「思考力・判断力・表現力等」の「読むこと」の学習事項が学習できるような課題を設定する。何をどこまで学習するのか一人一人が自覚することが主体的な学びにつながる。

2年 国語

単元名「じゅんじょに気をつけて読み、ちえグランプリをしよう」
教材名「たんぼぼのちえ」

児童が興味・関心をもち、学びの必要性を感じる学習課題の設定

単元導入では、児童がより教材に興味・関心がもてるような工夫をした。

「黄色い花を咲かせたたんぼぼはどのように変わっていくだろうか。」という発問を投げかけ、4枚の挿絵を並び替えた。それを見た児童は、「どうしてたんぼぼは変わっていくのかな?」と疑問をもった。そこで「いつ、どのようにたんぼぼは知恵を働かせながら変わっていくのだろうか。」という学習課題を設定した。

この順序でいいのかな



教科書を読んで確かめたい!

たんぼぼはどのように変わっていくのだろうか

学年に応じた学習課題の設定方法

低学年:教師と児童とのやり取りで設定
中学年:児童同士のやり取りで設定
高学年:自ら設定

学習課題とは解決しなければいけない問題

学習課題とは、解決しなければいけないものであるため、「～しよう」「～考えよう」ではなく、「～だろうか」と問題として提示する。



社会科では…

児童の生活経験と関係の深い資料や児童の予想との“ズレ”が生まれるような資料を提示し、それを基に話し合い活動を行うことで、単元の目標につながるような方向性のある児童の「問い」を喚起し、学習課題を設定する。

3年 社会

単元名「まちの人々の仕事」
小単元名「商店の仕事」



おうちの人が、よく行くスーパーマーケットをえらぶ理由 結果

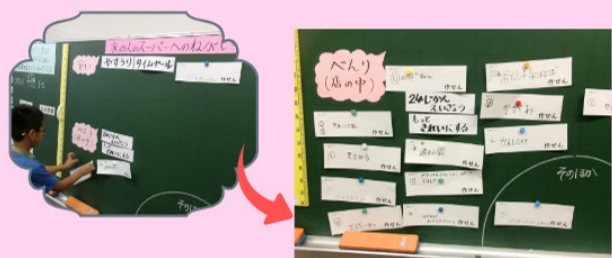
<ul style="list-style-type: none"> 買い物から ビールをやっているから ポイントがたまると ポイントアップの日があるから クーポンがあったから 	<ul style="list-style-type: none"> お肉の種類が多いから お肉の値段が安いから お肉の種類が多いから お肉の値段が安いから お肉の種類が多いから お肉の値段が安いから
---	--

児童の生活経験を基にした学習課題を設定

第1・2時で、児童は「買い物調べ」と「お店選びの理由調べ」を行った。この学習活動を通して、「お店選び」には、「品物の安さ」のほかに、「品物の新鮮さ」や「買いやすさ」「店員の接客のよさ」などの客としてのニーズがあることに気付くことができた。そこから「問い」を見だし、「お店で働く人は、お客さんの願いに応えるためにどのようにして品物を売っているのだろうか。」という学習課題を設定することができた。

自らの問いを明確にするために、資料を基に予想を立て、グループで交流

単元の学習前に行った実態調査の結果、スーパーマーケットで働く人の仕事について「レジを打つ」「商品を出したり並べたりする」などの回答をする児童が最も多く、児童の生活経験によって理解度に差があることが分かった。そこで、学級の中で最も多くの家庭が利用するスーパーマーケットの「店内写真」を資料として提示し、それを基にして学習課題に対する予想を立てた。すると、実際に店内で働く人の様子と自分のイメージとの“ズレ”から、新たな予想や問いが生まれた。個人で考えた予想や問いについて、グループで交流する中で、児童の課題意識がさらに高まり、さらに自分が特に調べたい「問い(課題)」を明確にすることができた。

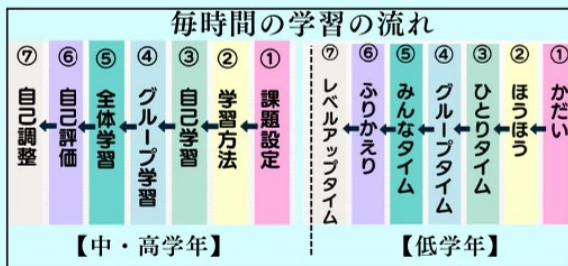




自ら見通しをもって取り組む

国語科では…

- ・毎時間の学習の流れを明確にすることで自ら見通しをもつことにつながる。
- ・読みの過程を習得することで、説明文の読み方が分かり、主体的に読むことにつながる。
- ・学習方法を自分たちで考えることで、学習のやり方が分かる。



1年 国語

単元名「うみのいきものがどのようにかくれているのか たしかめよう」
教材名「うみの かくれんぼ」

低学年の「読むこと」における学習の流れ

- ①全文を読んで書かれていることを問い、内容を大まかに捉える。
(1)生き物の名前 (2)場所 (3)隠れ方 (4)特徴
学習課題「どんな生き物がどこに隠れているのだろう」
- ②生き物の隠れ方について細かく読んでいく。
学習課題「どのようにしてかくれているのだろう。」
3つの生き物の隠れ方や体の特徴を詳しく読む。



中・高学年の「読むこと」における学習の流れ

- ①全文を直観的に読み、筆者が伝えたいことを捉える。
- ②なぜ、筆者はそのようなことを伝えたいのかを詳しく読む。
- ③筆者が伝えたいことに対して自分はどう思ったのかを考える。

学習方法を自ら考える

- 「この課題をどのような方法で調べていきますか」と発問し、児童がもっている学習方法を引き出す。
- ①生き物の体の特徴に黒線を引く。
 - ②隠れ方に赤線を引く。
 - ③課題に即して学習シートにまとめる。

社会科では…

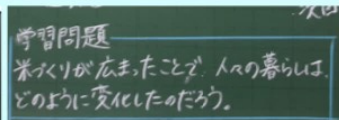
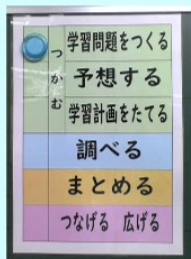
「つかむ－調べる－まとめる－つなげる」という問題解決的な単元の学習過程を常に提示し、児童が習得できるようにする。また、学習場面に応じて「めあて」と「問い（課題）」を使い分けて設定する。特に「調べる」段階では、1時間ごとの「問い（課題）」を明確にし、どのようなことを追究していくのか見通しをもてるようにする。

6年 社会

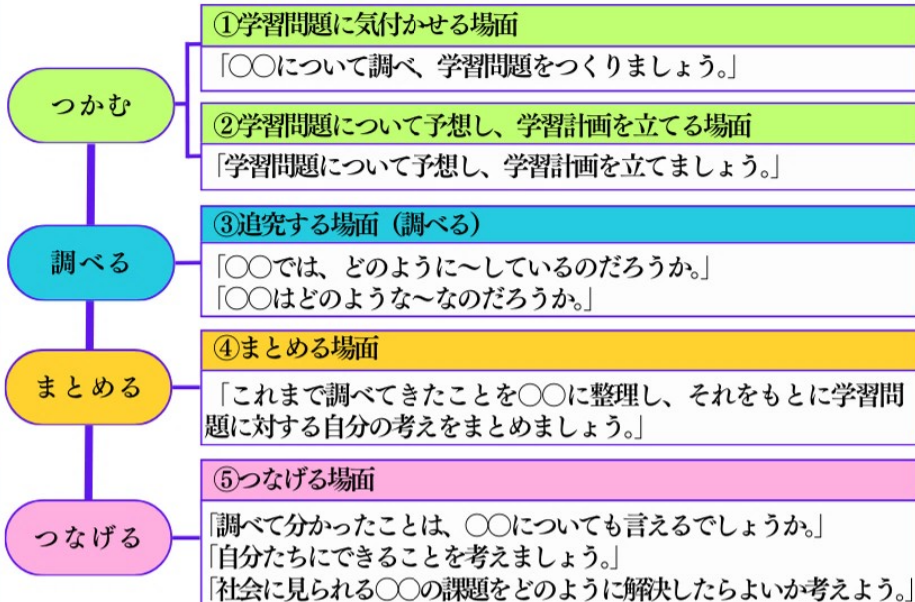
単元名「日本の歴史」
小単元名「国づくりへの歩み」

単元の学習過程の揭示

現在自分が学習している過程はどのようなのか、そして、次時は何をしていくのかを意識させるために、単元の学習過程を揭示する。例えば、第1時の「つかむ」段階では、学習問題をつくることを導入で児童に示し、本時とその後の学習について見通しをもって取り組むことができるようにする。



学習場面に応じた「めあて」と「問い（課題）」の設定例





自ら課題を解決する

国語科では…

単元の学習前に児童に身に付けさせたい資質・能力を図るために診断テストを行う。その結果を基に、実態に応じた習熟度別の学習シートを作成する。自分の力に応じて児童自らが選択し、「できた!」という達成感を味わわせる。

4年 国語

単元名 「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」
教材名 「アップとルーズで伝える」



診断テストで児童の実態をつかみ、習熟度に合わせた学習シートを作成

児童自ら課題を解決するために、学習前に児童がどのくらいの能力をもっているのかを図り、学習シートを工夫する。

- ① その教材で身に付けるべき資質・能力を明確にする。
- ② 使用する教材を決めて診断テストを作成し、実施する。
- ③ 結果を分析し、習熟度に合わせた学習シートを3～4種類作成する。

診断テストの結果を分析

- Aパターン：課題に即して答えている。
- Bパターン：一部読み落としがある。叙述をそのまま抜き出し、課題に即して答えていない。
- Cパターン：事例を捉えられていない。無回答。

この実態に応じて3種類の学習シートを作成する。

本時の学習課題

「アップとルーズにはどんな違いがあるのだろう。」

【Aシート】
課題に即して自由に考えをまとめるシート

【Bシート】
観点を自分で書き、対比しやすいように表が書かれているシート

【Cシート】
・文末の大切な表現などに線が引かれているシート
・表の観点が書かれているので、それに合わせてまとめることのできるシート

ルーズ	アップ	事例
アップとルーズの違いは、アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。	アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。	アップとルーズの違いは、アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。

アップ	ルーズ
アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。	アップとルーズの違いは、アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。

「よさ」「欠点」
など、自分で
観点を導き出し
て書く。

アップ	ルーズ
アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。	アップとルーズの違いは、アップは自分の考えを自由に書くこと、ルーズは自分の考えを自由に書くことではないこと。

本文のどこに着目すると課題が解決できるかが分かるようにヒントが書かれている。

社会科では……

「追究する場面（調べる）」では、個に応じた指導として、どのような資料を使うか、どのような形態（個人やグループ）で調べるかなど、調べ方や調べる順番、さらには、調べる進め方などを児童が一人一人選択できるようにする。

6年 社会

単元名 「日本の歴史」
小単元名 「全国統一への動き」

学習問題を解決するための「追究する場面(調べる)」における「個に応じた指導」

児童の問題意識や興味・関心の違いに応じて、調べる順番を一人一人が選択する。

児童のペースで追究の時間配分を決め、調べる進め方を児童一人一人が選択する。

日	学習課題	学習形態 個人 グループ	学習用具 使ったものに√	学習の記録 ・ノート ・Aシート ・Bシート	納得度 A・B・C	振り返り (学習内容について知ったこと・考えたこと) (学習の取り組み方で良かったことや反省・次回に向けて)
10月29日	どのような戦いをして力をつけたのか どのような外交をしたのか どのような政治をしたのか	個人 グループ	教科書 資料集 インターネット検索 NHK for School	ノート Aシート Bシート	A	ノートが上書きまわらず、時間がおしまふ。次は学習シートでやってみようと思ふ。織田信長は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いも外交も、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。
10月30日	徳川家康はどのような戦い、外交、政治をしたのか	個人 グループ	教科書 資料集 インターネット検索 NHK for School	ノート Aシート Bシート	A	家康は戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。
11月1日	徳川家康はどのような戦い、外交、政治をしたのか	個人 グループ	教科書 資料集 インターネット検索 NHK for School	ノート Aシート Bシート	A	家康は戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。徳川家康は、戦いのやりかたで決めた。

一人で調べるか、グループで調べるかなどの形態を児童一人一人が選択できるようにする。
※学び合いを意図的に設定する。

解決に必要な調べ方（資料）や記録の仕方を児童一人一人が選択する。



自ら学びを振り返り、 次の学習や生活に活かしている

国語科では…

毎時間、学習の最後に自分たちで評価基準を決めて自己評価をする。自己評価の結果を基に自己調整を行い、達成感や充実感をもつ。学習したことは次の学習や生活へ活かす。

5年 国語

単元名「筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう」
教材名「言葉の意味が分かること」

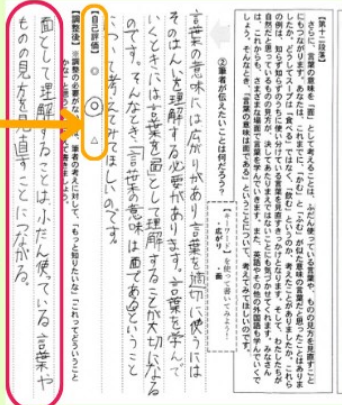
自ら学びを振り返る「自己評価」

課題に沿ってまとめることができたかを自己評価する。何ができたか「◎」なのかという明確な到達基準を教師自身が事前にもち、授業を設計する。

- ①全体学習で押さえた観点を基にして自己評価の基準を話し合う。
- ②基準に沿って自らの学びを振り返り、自己評価をする。(◎・○・△)

【自己評価の具体例】

- <評価> ◎「事例」と「筆者の考え」を読み分け、課題に合ったまとめ方をしている。
- 「事例」と「筆者の考え」を読み分けられたが、叙述をそのまま抜き出すなど、課題に即してまとめられていない。
- △「事例」と「筆者の考え」を読み分けられていない。

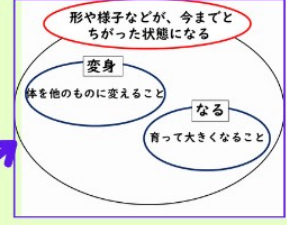


次の学習や生活に活かす「自己調整」

- 自ら学びを振り返り、次の学習や生活に活かす。
- ・全体学習の評価基準を基に足りなかった部分を補足したり、間違いを修正したりする。
 - ・調整がない場合は、より深く考える深化学習を行う。
- (例)筆者の考えに対して「もっと知りたい」と思うことを書く。等

【次時の学習や実際の生活に活かした2つの具体例】

- (1)前時で行った事実と考えの読み分けの仕方を、次の時間の自己学習に活かすことができた。
- (2)筆者の「言葉の意味を広げすぎた」という考えについて、本校の1年生の事例を取り上げ、普段の生活で「言葉の意味を広げすぎる」とはどういうことかについて考えた。
- ・「変身」の意味を広げすぎた結果、誤って使ってしまった例。
 - ×「6歳から7歳に**変身する**。」 →正しくは、「なる」を使わなくてはならない。



社会科では……

学習問題の追究の方法やその結果を基に、自らが獲得した学習内容や追究方法を毎時間振り返るようにする。その振り返りを通して、自分に合った学習方法や学習形態などについて考えたり、自分自身の学びの内容について改めて考えたりすることで自己理解を深め、次の学習へ活かすことができるようにした。

3年 社会

単元名「まちの人々の仕事」
小単元名「農家の仕事」

次の学習に活かすために、振り返りの視点を設定

児童が学習の振り返りを行い、自らの学びを調整することができるようにするために、右の5つの「視点」と児童が記述する際の「話型」を提示した。この「視点」と「話型」を提示し、活用させることで、学んだことを整理して次時の学習に活用することのできる児童が増えてきた。また、このような振り返りに取り組む過程で自己理解を深めるとともに、「調べる」段階では自分に合った学習方法や学習形態を考えてから選択する児童の姿も見られるようになった。また、振り返りの書き方が定着している児童は5つの視点に加えて「次の時間に学んでみたいこと」を書いている。

ふりかえりの書き方

① 今日の学習内容や学習の仕方について	ぼく・わたしは、 ～だったの、これから～ したい。
② 今日いちばんなるほど!と思った事	今日の一番の学びは ～だった。 りゆうは～
③ 新しい発見	～だということに、新しく 気づいた。
☆④ 新しいぎもん	～は分かったけど、 ～はどうなのだろう?
☆⑤ 学習して変わったこと	今日の学習/〇〇さんの ～という意見で、 ぼく・わたしの考えが ～に変わった。

+ 次回学んでみたいことは……

キヤベツはびょうきにかか
ないくふうをしているけど
なぜびょうきにかかるのたろう。

視点④の振り返り例

さんのいけんで
たしかに、きんじょうの人にうることもあ
りしれないといういけんもわかりました。

視点⑤の振り返り例

特別活動における主体的な姿

主体的な学びを行うことで、教科外においても児童の主体性が発揮された取組の一部を紹介する。

代表委員「廊下を歩こう週間」

廊下を走っている児童が多いことに課題意識をもち、代表委員が廊下を走っている児童に声をかけたり、歩いている児童を褒めたりする週間を考え、実施した。

健康委員「ハンカチ・ティッシュを 当たり前を持ってこよう週間」

ハンカチやティッシュを身に付けていない児童が多いことに課題意識をもち、各学期ごとに1週間、クラスでハンカチ・ティッシュを持ってきているかをチェックしようと提案した。1学期の様子を基に2学期は「抜き打ちプレチェック」を実施するなど、日常的に持参する割合を増やせるようにアイデアを出して全校児童に情報発信した。

図書の日「おすすめの本紹介」

図書の日で自分が借りたい本を選べない児童が複数いた際、他の児童数名がスライドをつくっておすすめの本を帰りの会で紹介した。国語の学習で学んだことを日常生活に活かした。

運動委員「体力テストの動画作成」

年に1回しかない体力テストについて、児童が記録を伸ばすためにはどうしたらよいかという課題意識をもち、全校児童に「できるポイント」と「できないポイント」が分かる動画を作成し、各クラスで運動のポイントを理解してもらった。さらに、休み時間は体育館で自由に練習できるようにし、運動委員会の児童が他の学年にポイントを教えることで体力テストに向かう姿勢が意欲的になった。



ご指導いただいた先生

- ・ 明星大学 教育学部教育学科 特任教授 相原 雄三 先生
- ・ 全国小学校国語教育研究会 顧問 藤井 英子 先生